

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0593900137	
法人名	株式会社ウウメディカル	
事業所名	グループホームいこいの家	
所在地	秋田県仙北郡美郷町六郷字遠槻383-2	
自己評価作成日	令和3年12月30日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会	
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1	
訪問調査日	令和4年1月18日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で様々な制限がある中、令和3年2月に開設しました。外出や地域交流などが制限されている中、行事や催し物を計画し共に楽しみ、春は山菜の処理を一緒に行い、夏は野菜作りなど、季節を感じられる取り組みを意識して行っております。それぞれのお客様の能力やこれまでの経験を活かして、やりたい事、出来ることを探りながら支援しております。また毎日午前午後とリハビリ体操や健口体操、各種ゲーム・レクリエーション、合唱などを行い機能の維持に努めております。職員は社内・社外研修に積極的に参加し介護・認知症についての理解を深め、より質の高いサービスの提供が出来るよう日々勉強しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍での開設であり、ホーム内での活動が主な取り組みとなっております。職員は家族とも思いを共有し、利用者の在宅時からの暮らし方に合わせて一緒に行動し、感謝の言葉を忘れず、自立に向けた支援に努め、穏やかに日常を送れるよう支援しています。制限がある中で工夫しながらできることを実行し、検討しながら今後の取り組みについて前向きに取り組んでおり、また、研修に積極的に参加して復命書等で内容を共有し、学んでいる様子も窺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念を事務所の目につきやすい所へ掲示し、全員が理念に沿ったケアが出来るよう取り組んでいる。新人研修・社内研修でも取り上げ理解を深められるよう取り組んでいる。	3項目から成る法人共通の理念が掲示されており、研修で取り上げている他、ミーティングや職員会議で日頃の業務を振り返る機会をつくり、意識の向上を図っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設以来、地域活動の自粛を余儀なくされているが、今後は地域行事への参加や認知症カフェの開催などを通して地域の方々と触れ合う機会を持ち交流を深めていきたいと考えている。	コロナ発生前には敷地内の他サービス事業所の催しで地域住民との交流が盛んに行われていた経緯があり、感染症終息後にホームの理解が得られる活動を検討しています。現状では町内の訪問理容を利用することが交流の機会となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	行政の取り組みである「認知症なんでも相談所」に登録し、相談対応の体制を整えている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、事業所の取組みやサービス提供内容、日常生活の様子などを報告し意見を頂いている。頂いた意見は事業所内で共有しサービス向上につなげている。	利用者、家族、行政、民生委員、地域の方がメンバーとなっており、資料を送付して生活の様子等を伝え、それぞれの立場から意見をいただいて議事録に残しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で事業所運営について共有し助言を頂いたり、お客様対応や介護保険制度等についても指導を頂くなど協力関係を築いている。今年度は事業所の避難訓練に参加いただき、助言を頂いている。	不明な点に対応していただく等、いつでも相談できる関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化のための指針を定め、職員にも周知している。またマニュアルや指針に基づいて新人研修、社内研修を実施し全職員が定期的に理解を深める取り組みをしている。日中はお客様の見守りを徹底し夜間のみ玄関施錠を行っている。	利用者の状況に応じて対応を検討し、拘束のない生活が送れるよう努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルに基づいて研修を行い高齢者虐待に関する知識の習得・理解に努めている。日頃のミーティングなどで、声掛けやケア方法など不適切な対応が無いか話し合い、職員の意識づけを行うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する社内研修を毎年行っている。これまで制度を利用されている方はいないが、必要に応じて支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に、契約書・重要事項説明書の内容に沿って分かりやすく説明し、不明点についても説明を行い同意を頂いている。料金改定等、契約内容に変更がある際も、十分に説明し同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情相談受付窓口について説明し、当事業所内や第三者機関の連絡先についても説明を行っている。お客様との日頃の会話の中で、またご家族との電話連絡や面会の際に意見・要望を伺い運営に反映させるよう努めている。	開設から1年ということもあり、利用者、家族共に入居後の生活に関する要望が多く出され、居室づくりやホームでの過ごし方等の意見を取り入れて生活に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティング等で職員から意見や提案をもらい、反映する取り組みをしている。また管理者は法人の運営会議にて報告し、法人内での情報共有も行っている。年2回全職員は法人幹部との面談の機会を設けられている。	職員の意見は管理者を通して法人に伝わる仕組みが確立されており、運営に活かせるよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの導入や資格取得者への報酬制度など、処遇の改善ややりがいをもち働ける環境づくりに努めている。年2回人事評価を行い職員個々の実績等の評価が行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回の人事評価で職員の能力等の把握、共有に努めている。新人研修・社内研修の実施の他、社会福祉協議会やその他の外部研修への参加をすすめている。研修は勤務扱いとし参加費用等を負担している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組み等について近隣GHへ相談・意見交換を行っている。また研修等参加の際など、他事業所の方と交流を図り意見交換や情報収集を積極的に行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネージャーからの情報提供をもとに、ご本人・ご家族から直接要望や心配な点などを伺い、できるだけ安心して生活を開始していただけるよう環境整備やケアの提供に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に、ご家族より要望や心配事をお聞きし、ご本人にとって必要な支援と一緒に検討している。当事業所での取り組みについても詳しく説明し不安なく利用して頂けるよう努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれのお客様に合わせて一緒に家事や趣味活動を行い、役割のある生活支援を心掛けている。また経験や得意な事を活かせる取り組みを考え、教えてもらう姿勢で関わるようにしている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後もご本人への対応などについて必要に応じてご家族へ相談し、これまでの生活状況を踏まえ支援するようになっている。毎月記録や写真で現状をお伝えし、随時電話連絡等により情報共有を図っている。コロナ禍で難しいが面会も進め家族関係を保つ支援をしていきたい。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お手紙のやりとりの支援などを行っている。コロナ禍で馴染みの場所への外出などは出来ておらず今後積極的に進めていきたい。ご友人・ご親戚の面会の際は今年度は窓越しで行って頂いていた。	現状では制限されていることが多いものの、コロナ終息後には家族の協力が得られる可能性があり、墓参り等、これまでの慣習等に沿った支援ができるよう検討しているところです。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	相性や性格・認知症の症状等を考慮して座 席を配慮したり、職員がお客様の輪の中に入 って会話の橋渡しをするなどの調整を 図っている。日中はできるだけホールで過 して頂きお客様同士の交流が図れるよう支 援している。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や状態の低下により、GHの利用継続 が難しくなった場合でも、居宅介護支援への 引き継ぎ・連携等の支援を行っている。退去 後も必要に応じて相談・支援を受ける体制と なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	毎日の生活の中で会話や表情から思いや 要望を汲み取るように努め、必要時はご家 族からの協力も頂きながら支援している。	日頃から利用者とのコミュニケーションを図るこ とに努めており、昔のことや今の思いを話し てくれることも多く、情報を共有して本人の意 向に沿った暮らしができるよう取り組んでいま す。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等 の把握に努めている	担当ケアマネージャーやご本人・ご家族より これまでの生活歴等を伺っている。またご本 人と生活し関係性を築いていく中で、趣味嗜 好、得意な事などの理解をさらに深めてい けるよう努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルサインチェック・体調観察の 他、一日の過ごし方について、ケア記録を通 して情報共有に努めている。また定期的な アセスメントでADLやIADLなどの経過の把 握に努めケアに活かしている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	月1回の会議にて職員全員でケア方法につ いて意見等を出し合っている。またケアプラ ン更新・変更時には事業所内でカンファレン スを行い、ご家族にも現状の報告・相談をし ながらケアプランを作成している。	定期的に或いは状況に応じて随時カンファレ ンスを行って職員の意見を聞き、現状に即し た介護計画を作成しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や支援内容について個別のケア記録や申し送り簿等で情報共有を図っている。またその内容を介護計画の見直しに活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の理容所さんより定期的に出張床屋をしていただいている。今後は馴染みの店舗やスーパーなどへ買い物に出掛けたりと外出の機会も増やしていきたい。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族のご希望にて内科医が訪問診療を行っており、必要時は緊急時医療機関への紹介が行われている。また必要時は協力歯科医療機関より訪問診療・治療が行われている。掛かりつけの薬局があり、随時指導・助言を頂いている。	協力医による訪問診療が行われており、看護師が在籍していることから適切に医療支援ができるよう取り組んでいます。家族には毎月報告しており、状況に変化があった場合はその都度連絡しています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が職員として在籍し、日々の健康管理や状態変化の把握に努めている。介護員の情報や気づき等も踏まえながら必要時は掛かりつけ医への報告や受診時の情報提供等などの協力を行っている。24時間連絡体制を確保している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はGHでの生活や心身状態、状態変化時の状況等について情報提供し、退院の目途に合わせ病院看護師より情報提供を頂いている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合について、指針に沿って説明し同意を頂いている。現時点では終末期ケアは行っていないが、事業所として出来る事を十分に説明し可能な限りご本人に寄り添ったケアが出来るよう取り組んでいる。	終末期のケアには対応しておらず、また、現段階で重度化している利用者はありませんが、ホームでできる支援について入居時に説明し、同意を得ています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、急変時や事故発生時の対応についての社内研修を行っている。また同敷地内の短期入所・通所介護等とのやり取りが随時行われ、情報共有や実践的な学びの機会が得られている。救急救命講習の受講も予定していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	開設以来2度避難訓練を行っている。いずれも火災、日中想定で行っており、今後は夜間想定で行う予定。通報・緊急連絡方法・避難誘導・消火器の使用方法等について訓練し、消防より指導頂いている。同敷地の短期入所からの応援体制を整えている。	日中を想定した火災時の訓練の経験しかないので、夜間を想定した訓練を行うことにしています。火災に限らずさまざまな災害に対応できる体制づくりが急がれます。	職員の少ない時間帯に訓練を行うことによって季節や天候に応じた課題を見つけ出し、また、運営推進会議を活用する等して協力方法を話し合い、利用者、職員が安全に避難できる対策を検討されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語・丁寧語での会話を基本としながらも個々に合わせた温かい声掛けや対応を心掛けている。人格を尊重して傾聴し、こまめに感謝の言葉を伝えるようにしている。	高圧的な物言いにならないよう声がけに注意し、利用者それぞれの得意分野で能力を発揮していただいて自信に繋がる対応に努めています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のコミュニケーションの中で関係性を築き、思いや希望が言いやすい雰囲気作りに努めている。飲みたいものや着たいものなどなるべくご本人が選択・決定できる場面を作るよう取り組んでいる。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の日など、決まり優先となってしまう事もあるが、出来る限り希望に添えるよう調整している。その時々のお話や表情から気持ちを汲み取り、ご本人のペースを大切にしている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な散髪その他、白髪染めのご希望に沿って、出張床屋に依頼している。また衣類はご本人と一緒に選んで着ていただいている。母の日イベントでは口紅やマニキュアを楽しんで頂き好評であった。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様と一緒に山菜の下処理や野菜を洗ったり、料理の味見をしていただいたりと食事に関する活動を通して楽しみが得られるような支援を心掛けている。出来る方は箸を並べたり下膳したりを一緒に行っている。	利用者のこれまでの経験が力として活かされる場面が多くみられ、職員も工夫を凝らしながら食べる楽しみに繋がっています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの状態やその時の体調に合わせて食事の形態を粥や刻みなどを工夫し提供している。食事摂取量について記録し、体重は毎月測定し状態把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを勧めている。ご自身で十分に出来ない方は職員が出来ない部分をお手伝いし、口腔状態を観察している。夜間は義歯洗浄剤を使用する方もいる。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は失禁せずに出るだけトイレで排泄できるよう、その方のパターンに合わせてトイレへ案内するなどの支援を行っている。出来るだけ自立支援の視点で関わり、能力を引き出すように心掛けている。	機能の低下がみられ、何かしらの手助けが必要な方が多くなりましたが、現状が維持できるよう努力しており、トイレでの排泄を基本として支援しています。	チェック表を有効に活用することにより、その人毎のパターンを把握し、自立に向けた取り組みを期待します。
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝に牛乳を提供したり、水分摂取を促している。また毎日のリハビリ体操や入浴時に腹部のマッサージをして排便を促している。必要時には医師に相談し整腸剤や下剤等での調整を図っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週2回、日中の入浴となっている。体調不良や、拒否がある場合は柔軟に対応するようにしている。また浴槽の温度についても出来る範囲で希望に沿って行っている。	週2回を目安に、その時々状況に応じて柔軟に対応しています。入浴剤を使用したり、季節に合わせて菖蒲湯を提供したりして楽しく入浴できるよう支援しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ活動的に過ごし夜間に十分な睡眠がとれるよう支援しているが、その方の生活リズムに合わせて日中も休息していただけるよう支援している。季節に合わせて寝具を調整し安眠できるよう支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お客様の薬の種類や目的・副作用については職員がいつでも確認できるようファイルに綴じている。また内服の変更時は申し送り簿等で全員へ周知し、看護師を中心に状態の変化等の観察を徹底している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれのお客様の生活歴や能力、得意分野を活かし、制作レクリエーションや園芸活動などを通して楽しみある生活ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出支援の取組みはほぼ制限されていたが、天気の良い日は施設周辺の散歩を行うなどの取組みをしている。ご家族の協力の下、自宅へ衣類を取りにいかれた方もいる。	ホーム周辺は散歩に適した環境であり、プランターで野菜を育てる作業は遠くに出かけずとも、外気浴や気分転換に繋がる支援となっています。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理はご家族対応とさせて頂いており、希望があれば事業所立替やご家族が対応している。現在利用中のお客様から特に要望等は出ていないが今後の支援として、希望があれば検討していきたい。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を掛けたり電話を取り次いだりしている。また手紙・ハガキ等のやり取りについても対応している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度湿度の調整の他、換気や消毒などを行い、安全・快適に過ごせるよう配慮している。また四季に合わせた装飾を行って季節を感じていただき居心地良く過ごせるよう取り組んでいる。脱衣室やトイレ等も温度管理している。	玄関は少し狭く感じますが、居室前の廊下は歩行訓練するのに十分すぎる程広く、全館ゆっくり通行できる広さがあり、畳スペースにはこたつもあり、居心地の良い共用空間となっています。浴室には安心して浴槽に入れるよう補助板が設置されています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と和室にそれぞれテレビを設置、和室にはこたつを置いている。ホール内数カ所にはソファを設置して、それぞれの時間をゆったりと過ごせるよう配慮している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやベッドは予め設置しているが、馴染みの物の持ち込みも可能としている。テレビ・ラジオを持ち込まれている方もいる。ご家族の写真を飾ったりと居心地良く過ごせるよう配慮している。	居室の出入り口も広い造りとなっています。家族の依頼で写真を飾ったり、ベッドの配置を利用者と一緒に決めたり、それぞれの生活の場としての環境づくりが行われています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所に手すりを設置したり、福祉用具を導入することで安全かつ自立した動作ができるよう支援している。トイレや居室に分かりやすい目印をつけるなど工夫をしている。		